

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法 IV Theory of Socialwork IV		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	月曜～木曜の授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
<p>相談援助技術における対象の理解、スーパービジョン、ケースカンファレンスなどを学習する。 上記を学ぶとともに相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 将来、相談援助の場面において、本講義で学んだことを活用し、利用者への的確な支援ができるような基礎レベルの技術の定着を目指す。</p>				
授業の目標				
<p>①スーパービジョンの方法と留意点を説明できるようにする。 ②ケースカンファレンスの意義と目的を学び、その展開過程を確認できるようにする。 ③事例研究・事例分析の方法について学び、例証できるようにする。 ④事例のなかで活用されている援助技術や各援助技術の関連を明確にできる。</p>				
授業の方法				
<p>テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義方式とする。 各種技術を習得あるいは体験するためグループでの演習（プログラミング、ロールプレイ）や個人ワークを取り入れる。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>仮に設定した援助場面で相談援助の知識・技術を活用できる。 スーパービジョンの技術を用い、自己成長に努めることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標と進め方、成績評価の説明、諸注意等）			
第2回目	スーパービジョン①			
第3回目	スーパービジョン②			
第4回目	ケースカンファレンス①			
第5回目	ケースカンファレンス②			
第6回目	記録①			

第7回目	記録②	
第8回目	相談援助の実際・事例研究①	
第9回目	相談援助の実際・事例研究②	
第10回目	相談援助の実際・事例研究③	
第11回目	相談援助の実際・事例研究④	
第12回目	個人情報の保護	
第13回目	相談援助におけるITの活用	
第14回目	事例検討の視点・試験	
第15回目	国家試験対策	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨み、必要なことはノートを取り、学んでいること。周りに迷惑をかけるような態度は、減点対象とする。
レポート	10%	事例研究についての課題を評価対象とする。以下の点で評価する。評価Sは、課題に積極的に取り組み、自分の意見・主張を取り入れ、作成要領を遵守し、提出されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	国家試験を基準とした○×形式、穴埋め、記述式、事例問題で出題し、知識及び内容の理解を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：社会福祉士シリーズ「相談援助の理論と方法Ⅱ」福祉臨床シリーズ委員会編／弘文堂（相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。		